

# 今、この人に **Interview**

KASCLE 主宰 **マーク C ブラッドフォード** さん

**お互いの文化をリスペクトすることが大事。  
地域社会の中心となるオープンスペースを作りたい。**



## ■日本にはじめて来たのはいつ、どんなことがきっかけでしたか？

私はアラバマ大学で国際関係政治学を勉強していました。当時大学は千葉大学と提携しており、日本の歴史の授業や交流イベントなどもありました。それで日本に興味を持ち、25年前、大学を卒業後日本で貿易関係の会社に入って働き始めました。

## ■そのときの日本はどんな印象でしたか？

日本は24時間眠らない街、というイメージがありましたが、初めて来日したとき、成田空港に着いたのが東京方面行き最終の10分前で、24時間ずっと電車が走っているわけではないんだ、と驚きました。テレビで見た日本は、どこもニューヨークのような都会のイメージでしたね。また、日本人はよく勉強するという印象がありましたが、大学生はそうでもありませんでした。学校でも運動会や文化祭、何かの大会と「遊び」の時間が多いように思います。

## ■日本のいいところは？

自分の国やまちの文化を大切にしているところですね。「節分」「こどもの日」などの行事や大津祭など400年も続くお祭りを、祖父から孫へと受け継いでいるところはすごいと思います。アメリカには、そういう伝統的なものは少ないですからね。

## ■日本の食べ物はどうですか？

ふなずしも菜の花漬けも食べます。ふなずしは、使うフナや米が同じでも店によって味が違うのが面白いですね。はじめて食べたときは苦手な味でしたが、何回か食べるうちにおいしさがわかるようになりました。やはり「私が作ったんです」と言って出され



▲生き物の水槽がずらりと並ぶ「KASCLE」の様子。

たものは、食べるのがマナーですし、話のきっかけにもなります。それがお互いをリスペクトする（敬意を表す）ことだと思っています。

## ■日本の企業で働いたあと、アメリカに戻って小学校の教師をされていたね。先生になりたかったということですか？

若い頃、小学校教師になるのが夢でしたが、両親に反対されました。実はアメリカでは男性の小学校教師はとても少ないのです。そのため、興味があった日本の企業で働くことにしました。でも子どもと関わる仕事があったのでアメリカに戻って小学校教師と非英語圏の人への英語教師免許を取り、10年間アメリカで小学校教師を務めました。その後2006年から妻の出身地の滋賀で暮らすようになり、また滋賀大学大学院で環境教育について学びました。

## ■今は大津のまちなかで「KASCLE」という英会話教室を開かれています。この教室はどんな思いで始められたのですか。

大手の英会話教室で講師をしたこともありましたが、そのとき1クラスの人数が多すぎて、生徒は質問したくてもできずに終わってしまうなど「かわいそう」と思っていました。また日本の子どもは学校で英語を習いますが、テストばかりで英語に対して楽しい思い出がなく、中学生になると英語嫌いになってしまう子どもも多いですね。それで、もっと充実した学習環境の中で、楽しみながら英語を学んで英語を好きになってほしいと思ったんです。KASCLEという名前はお城を意味するCastleとかけてあり、お城のように地域の中心の役割を果たしたいという思いを込めています。

## ■どんな人が生徒さんとして来られますか。

下は3歳から上は80歳代の方までおられます。日本の子どもが一番多いですが、2割は外国籍や、外国在住の経験のある人ですね。英語を使って話したい人や、日本ではなかなか出会えない外国のものと出会いたいという人もいます。

## ●プロフィール●

1966年生まれ、アメリカ・フロリダ州出身。アラバマ大学を卒業後1991年から93年まで日本企業に勤務。その後帰国しサウスフロリダ大学で小学校教育を学び、1997年から2003年までフロリダ州で小学校教師を務める。再来日して関西各地のインターナショナルスクールで校長を務めた後、2011年滋賀大学大学院環境教育専修修士課程修了。大津のまちなかで、生きた英語を楽しむ学べる英会話教室KASCLEを開いている。

◆問い合わせ先 KASCLE  
住所：大津市中央1-2-20  
TEL：077-535-8904  
E-mail：Mbradford@aol.com

## ■楽しみながら英語を学ぶとは、具体的にどんなことですか。

ここではピワコオオナマズやイワトコナマズ、スナネズミ、ハムスター、クロガメなどいろんな生き物を飼っています。生き物の好きな子どもは、英語を使いながら生き物のことを学びます。外へ出かけてモリアオガエルの卵を見に行ったりもします。イモリとカエルは卵はそっくりだけど、孵るとき、イモリは前足から、カエルは後ろ足から出てくるという違いがあります。そういうことを学んで、英語で発表します。カードゲームをしたり、外国の食べ物、飲み物を楽しんだりすることもあります。テキストは使わず、科学や文化、芸術や環境などの知識を通して英語を学びます。

## ■毎年、サンタクロースのボランティアもしているそうですね。

31年間続けています。サンタクロースになって幼稚園や病院、福祉施設を訪問し、子どもたちと一緒にダンスをしたり歌を歌ったりします。1シーズンに35回やったこともあります。汗だくになるのでサンタのスーツは4着用意しています。

## ■「KASCLE」をこれからどんな場所にしていきたいですか。

3階にはオープンスペースがあるので、みんなで集まりたい、何かを教えたいという人がいれば、いつでも使ってもらいたいですね。そして地域の中でいろんな文化を持った人たちが交流できる場所としての役割を果たしていきたいと思っています。